

令和5年度 福島市在宅医療・介護連携支援センター 事業計画

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
① (ア)地域の医療・介護資源の把握	包括、病院MSWへ訪問	包括訪問			MSW訪問			MSW訪問							
	専門職・市民へ周知	県北緩和ケア社会資源情報 作成協力													
(イ)課題抽出と対応検討	各会議等で意見交換	活動と課題		運協会議								運協会議			
	オレンジプランワーキング		会議		会議				会議				会議		
(ウ)切れ目ない在宅医療	在宅医療機関の現状と課題を把握	施設看取り、現状把握アンケート					集計		取組む課題を整理						
	MSWと地域医療会議			MSW、CWと意見交換											
② (オ)相談受付	相談受付・記入・集計	随時													
	関係機関への課題と対応策の検討及び提案	随時													
(キ)市民啓発	市民向け講演会				企画					依頼者準備		打合せ	3/21 講演会		
	市民向けミニ講座	随時、包括と協働													
	看病、介護講座	①			②			③							
(工)情報共有の支援	退院調整ルール評価	モニタリングアンケート調査依頼					集計		評価研修準備、研修						
	ICT説明・活用研修会	ICT相談受付						活用・実践事例研修							
	在宅支援確認シート作成	<ul style="list-style-type: none"> 在宅診療報酬算定チェックリスト作成 一人暮らし支援チェックシート作成 													
(カ)研修企画	研修会企画・開催	(認知症)				①認知症ケア		②認知症スクリーニング			③認知症対応力カステップアップ				
		(在宅医療・終末期)				終末期支援研修									
	他職種研修と開催協力	随時					ふくふくオレンジフェスタ オレンジライトアップ周知								
③ 対策の評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> ①退院調整ルール連絡漏れ率 (プロセス評価) ②自宅死亡率 (プロセス評価) ③在宅医療の訪問患者数 (プロセス評価) ④在宅医療の訪問患者率 (アウトカム評価) ⑤自宅看取り数 (プロセス評価) ⑥診療所数 (ストラクチャー評価) ⑦在宅療養希望率 (プロセス評価) 		(評価指標根拠)		<ul style="list-style-type: none"> ①県北地域退院調整ルールアンケート ②厚生労働省「在宅医療にかかる地域別データ」 ③④県北在宅緩和ケア社会資源情報 ⑤⑥厚生局 自宅看取り数、在宅療養支援診療所データ取寄 ⑦福島市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 						改善に向けた事業計画				

令和5年度 10月～3月 福島市在宅医療・介護連携支援センター 活動報告

(ア) 医療・介護資源の把握

令和5年度計画 (Plan)	活動内容 (10月～3月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
<p>①ホームページ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集(医療・福祉)と提供 ・各団体の研修案内ページの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる周知、随時情報の更新 ・事業所検索にもの忘れ相談医を追加掲載 ・各包括、医療機関等の活用できる情報を随時追加掲載 ・出席できない方へ研修会報告の掲載 (写真、アンケート結果) ・ホームページ閲覧数 月平均2,866件 (1日平均96件) 	<p>○ホームページが活用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡先を確認するツールとして認知されてきた ・各事業所からの情報提供を掲載 ・歯科医師会との調整、特養、老健の掲載を検討
<p>②専門職・関係者、市民への周知</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資源の把握のため病院連携訪問20か所 (11～1月実施、把握した現状のまとめは【資料】参照) 6、7月実施の全地域包括支援センター訪問結果をMSWに情報提供 ・県北地域在宅緩和ケア社会資源情報誌作成協力 ・もの忘れ相談医の把握 (随時更新) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で情報提供、連絡を取りながら状態把握を工夫している。 ・当センターHPの活用を提案し情報掲載を実施

(イ) 課題抽出と対応検討

令和5年度計画 (Plan)	活動内容 (10月～3月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
①運営協議会・意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・2/22 運営協議会開催 (令和5年度上半期事業報告、福島市の在宅医療についての意見交換) 	<p>運協委員から在タッチの業務及び、福島市の在宅医療についての現状について積極的に意見を聞く貴重な機会となった このような場を継続していく</p>
②地域会議への参加 (事業活動について報告)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、包括ケア推進室、市保健所地域医療政策室と定例会の開催 (10/31、11/27、12/25、1/29、2/26、3/25) ・10/26 こころの声アンケート事後研修会 ・2/16 福島市地域包括支援センター運営協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会では、地域の課題を報告と検討 ・各会議に参加し、共通している地域の取組や情報、課題等について協力している ・各種事業実施後は実施状況をホームページに掲載
③関係団体会議出席	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護のネットワーク定例会 (5/25、10/19、1/18) 10/9は公開定例会として専門職団体会員向け研修会開催 参加者127名 テーマ：「コロナ禍からの再スタート」 アオウゼ多目的ホールではシンポジウム 同 大会議室にてグループ交流会 ・1/12 メディカルショート連携の会 大原医療センター ・2/5 包括支援センター主任ケアマネ部会 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・12/5、3/5 オレンジプラン推進委員会ワーキング会議 (もの忘れ相談医対象連携強化研修・包括との連携強化に対する事業実施の協力) ・福島市介護支援専門員連絡協議会役員会 (2/13) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア推進のためにこの団体の活動は重要と捉えており、活動の継続、充実に向けて事務局機能を果たしていく ・集まりお互い顔の見える関係を構築している <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・もの忘れ相談医への連絡など市医師会の協力を得られている ・認知症支援、連携の課題についての情報を確認、把握する実践に向けた準備会議であり積極的に協力

(ウ) 切れ目ない在宅医療

令和5年度計画 (Plan)	活動内容 (10月～3月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
①在宅医療機関の現状と把握	<ul style="list-style-type: none"> ・資源の把握のため病院連携訪問20か所 (11～1月実施 把握した現状のまとめは【資料】参照) ・施設看取りについてのアンケート依頼(特養、老健37箇所) 集計結果を報告研修会を予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・福島市の在宅医療の需要と供給の現状評価と今後の方向性を明確にする必要がある ・在宅看取りの希望に対応できる医師の養成が求められている ・施設看取り率が低いことに関して、看取りの現状を把握するアンケートを実施
②アウトリーチ(同行)支援システムの構築	<p>現在実施している大崎市、松戸市、横須賀市医師会の資料を参考に、方法、手順、依頼文書を準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医師のアウトリーチに対するニーズがある実施できる体制準備について市医師会へ相談。進んでいない現状がある ・計画案を医師会へ提出し協議していく
③MSWとの地域医療会議	<p>医療ソーシャルワーカーと福島市ケースワーカーとの合同研修会を準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MSWとケアマネの連携強化のため合同研修を定期的に継続していく ・福島市ケースワーカーとの研修は未定年一回は開催したい
④医療と介護のネットワーク充実支援	<ul style="list-style-type: none"> ・「福島市医療と介護のネットワーク」事務局として役員会および定例会の運営協力 役員会(11/27、3/28)、ワーキング会議(10/2、3/14) ・令和6年度総会にむけての準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステム構築のための重要な機関となってきた ・今後、福島市の医療、介護、福祉における具体的な課題を共有し解決に向けた取組を行う

(工) 情報共有の支援

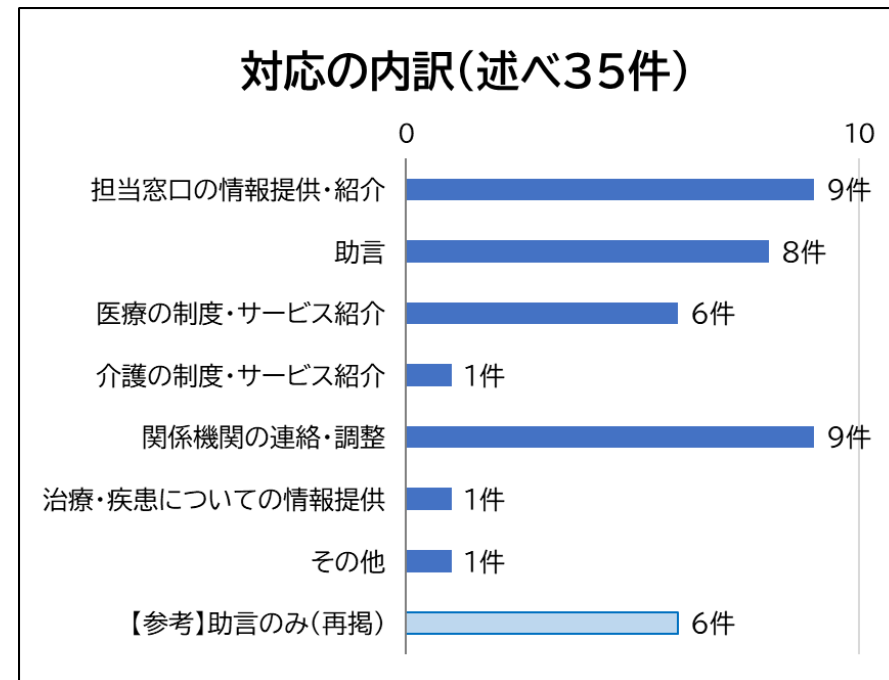
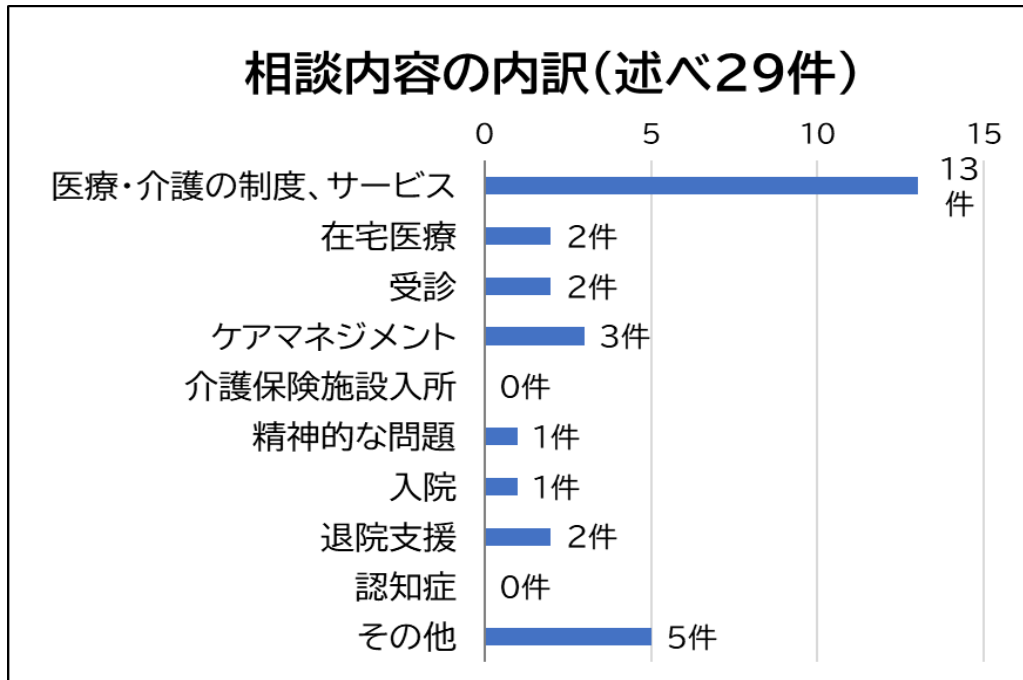
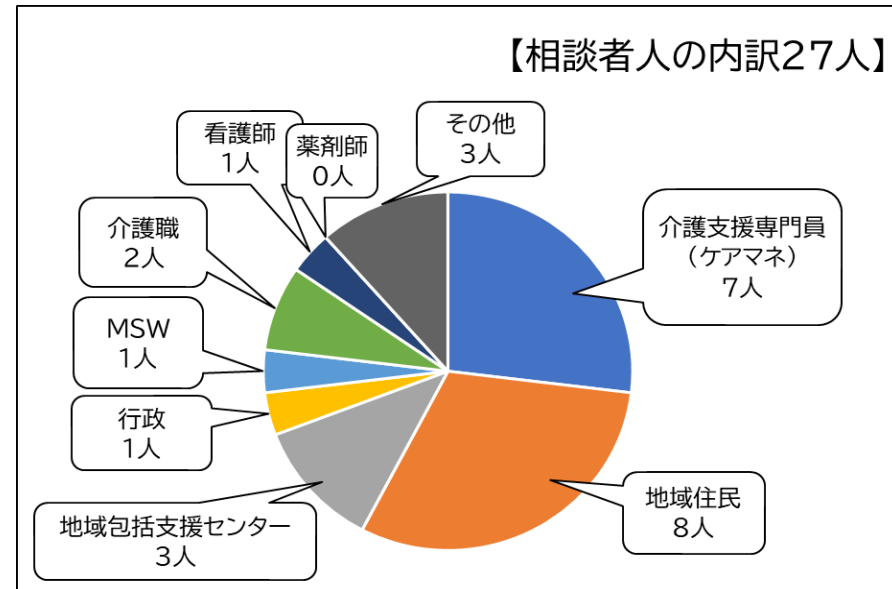
令和5年度計画 (Plan)	活動内容 (10月～3月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
①退院調整ルール評価	<ul style="list-style-type: none"> ・2/1「退院調整ルール評価アンケート」運営評価会議の協力 県文化センター大会議室 (打合せ12/11) 福島市分の調査票送付 (居宅90箇所、包括22箇所) 回収、集計の協力 回収率を上げるため、締切後に電話で確認 回収：居宅85/89箇所、包括21/22箇所 もれ率：予防22.7% 介護8.0% 全体11.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年9年目。連携は取れているとの報告が多くなり、昨年度よりもれ率は減小。コロナが5類になった他、面談できない状況でお互いの情報のやり取りに経験値が上がっている ・今年度、集合による評価会議を行えるよう県北保健福祉事務所へ協力する 【参考】R4福島市の結果 回収：居宅85箇所、包括21箇所 もれ率：予防27.1% 介護12.8% 全体15.8%
②ICT説明・活用研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・2/7,18 MCSガイダンスセミナー (ZOOM) 来年度、導入のための説明会、契約書等準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携のため一部の医師が活用している 依然ICTの活用は進んでいない ・今後、MCSの活用を出前講座形式で準備。利用者への同意書など必要な書類を準備する ・診療所医師を中心にICTのチームを作ることを当面の目標にする
③在宅療養支援者確認シート作成	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関等へ訪問し、身寄りがない人への具体的支援を確認 一人暮らし高齢者世帯を見据えて、一人暮らしや身寄りがない方へ支援する際に必要な具体的な情報提供をしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の支援として包括・MSW、ふくしえるから情報収集できた ・作成にむけた準備(情報収集)を進める ・ケースを想定しフローチャートの作成、ワーキンググループの設置も検討していく

(才) 相談受付

令和5年度計画 (Plan)	活動内容 (10月～3月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
①相談受付・記入	<ul style="list-style-type: none">・相談件数27人 (月平均4.5人)・時間外や土日祝も電話を受けられる体制を継続	<p>【相談方法】 「電話」 85% 「来所」 11% 「メール」 4%</p> <p>【相談者】 計27人 内訳：住民8人、ケアマネ7人、包括3人、介護職2人、MSW1人、行政1人、看護師1人、医師1人、その他3人</p>
②相談内容の整理	<ul style="list-style-type: none">・相談分類 延べ32件 (1件の相談でも複数の相談項目有)・対応 延べ35件 (対応項目も複数有)・相談内容、対応の内訳は グラフ 参照	<p>【相談内容】</p> <p>「医療・介護の制度、サービスの情報提供」が最も多く、次いで「在宅医療」についての相談が多い</p> <p>内容として、市民から「在宅医療を受けたいがどのような手続きを取ればよいのか紹介してほしい。」ケアマネから「主治医意見書を書いてもらえない」、「主治医の変更の対応について」、「たん吸引等医療依存度の高い方の支援の相談」がある</p> <p>また、施設入所中だが、在宅医療や介護を利用をして自宅へ返したいと思っている相談、身寄りがない方の支援について備えていくことに関する相談が増えている</p> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none">・相談窓口の情報提供、紹介が最も多い。何らかの具体的な方法を紹介、上手く行かないときは再度連絡もらうことにしている・相談内容を定例会、所内会議にて対応を確認している
③関係機関へ課題と対応策の提案	定例会および運営協議会にて報告 相談実績から課題の検討	<p>【実績からの検討課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・困難事例の相談に対応できるよう相談スキルを高めていくことが必要である・在宅医療や受診に関する相談に対しては、医師との顔の見える関係づくりやアドバイスが得られる仕組みの検討が必要

相談の状況

令和5年度下半期(10月～3月)相談件数 27件



(カ) 研修企画

令和5年度計画 (Plan)	活動内容 (10月～3月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
①研修会企画・開催	<p>【医療・福祉セミナー研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11/27 「高齢者施設での看取り」 特別養護老人ホームはなしのぶ ケアワーカー長 東条悠一郎 氏 WEB視聴回数297回 ・ 1/25 「オンライン診療の進化と活用方法とは」 ファストドクター株式会社 新規事業開発室 デジタル往診グループ長 丸田 裕司 氏 参加者21名 (保健福祉センター5階) <p>【認知症対応支援研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1/16「認知症スクリーニング研修」 あずま通りクリニック小林直人医師 WEB視聴数79回 ・ 3/11認知症ステップアップ研修 「つながりを築く！～認知症の人とその家族のケアを考える～」 会場参加者 30名、(保健福祉センター5階) WEB視聴回数191回、90回線 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の取組など知り連携が取りやすくなる情報提供を行った ・ 研修アンケートから集合研修が実施できるようになっても、Web配信研修のニーズはあるため継続していく ・ 研修申込みはグループフォームを活用し、業務負担軽減、ペーパーレスとなっている
②多職種連携研修会 他団体の研修会協力・案内協力	<p>依頼による研修協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12/20市医師会 在宅医療研修 医師等対象 ・ 1/30もの忘れ相談医との連携強化研修 包括支援センター対象 ・ 2/10ふくふくオレンジフェスタ認知症に関する啓発 ・ 3/7もの忘れ相談医へ「インタビュー動画」の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ZOOMミーティング、WEB配信での研修についてのアドバイス、撮影方法をできる限り協力する ・ 今後もイベントや研修開催等の支援をしていく
③主任介護支援専門員 フォローアップ研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者虐待対応ケアマネ向けアンケート、集計の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主任介護支援専門員向け準備が進まず開催できなかった

(キ) 市民啓発

令和5年度計画 (Plan)	活動内容 (10月～3月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
<p>①市民向けミニ講座 (1) 在宅医療について (2) 私の人生ノート書き方 (3) もしバナゲーム</p>	<p>(1) 10/6 中央学習センター (20名) (2) 10/16 市退職者会 (50名) 10/20 アオウゼ勉強会 (38名) 12/11 ひだまりサロン (6名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、出前講座の依頼が増えている ・市民向けに周知し共催できる包括や事業所を増やしていく ・ACPやエンドオブライフケアについて、別の媒体（もしバナゲーム等）を新しく出前講座に追加した ・開催前後にアンケートを取り、より理解が深まる講座を提供している ・今後も出前講座に力を入れていく
<p>②包括との合同</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11/11 三河台市民研修「看取りの劇」中央西包括 ・ 上記出前講座 (2) 11/28 吉井田くるみカフェ (11名) (2) 12/10 飯坂北 (23名) (2) 2/22 飯坂南 (8名) (3) 2/14 北信東 (25名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括と関わりのある団体むけに合同で実施できた ・ 包括でも開催できるよう包括へのレクチャー、資料の提供等協力していく
<p>③市民公開講座開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月21日「老後一人ぼっちを生きる」 ノンフィクション作家 松原惇子 先生 福島テルサ 参加者210名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の人が関心を持って聞きやすい講師を依頼し、側に立った講演、情報提供を行う事ができた ・ 聴覚障害者からの参加希望により、手話通訳士を市障がい福祉課に依頼

関係市町村連携

令和5年度計画（Plan）	活動内容（10月～3月）（Do）	評価(Check)/改善(Action)
<p>近隣市町村や県内で開設している在宅医療・介護連携支援センターと情報共有や情報交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12/14 県内在宅医療・介護連携推進事業研修会 (ZOOM) ・ 10/17、2/20 県在宅医療・介護連携支援センター連絡会 (ZOOM,郡山ビューホテル) ・ 3/28 在タッチの活動と課題について 伊達市医師会 (ZOOM) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内センター同士で情報交換をMCSで行っている ・ 在宅医療・介護連携推進事業の関係市町村連携について協力していく

その他の取組

令和5年度計画 (Plan)	活動内容 (10月～3月) (Do)	評価(Check)/改善(Action)
① AYA世代のがん医療情報と支援取組	福島市若年がん患者在宅療養支援事業 周知協力	<ul style="list-style-type: none"> ・福島市保健所地域医療政策室との情報交換を継続 ・がん拠点病院相談支援のメンバーと情報を共有
② 障がい者支援	共生社会推進課へどのような相談があるか情報をお聞きした今後、専門職にむけて研修を準備していく	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援では、介護保険だけでなく、障がい福祉や難病支援等との連携も必要である ・今後も、センター事業に活かせるような情報交換を継続していく
③ 医療・福祉職人材育成	県介護支援専門員法定研修講師依頼への対応 (法定研修 専門Ⅰ、専門Ⅱ、主任、主任更新、実務の講師)	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療を支える人材の育成は必要 ・講師依頼があれば、協力していく
④ 学会、研修等参加	12/ 1 先進地域視察 横須賀市在宅医療・介護連携支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸市：地域を一つのバーチャル病院ととらえ、医師が地域ケア会議に出席、アウトリーチするなどの地域サポート医、二人主治医制、在宅医療のスタートアップや質向上を柱に活動。 ・在宅医療学会に発表する準備を行い、学会参加および研修に参加したい

福島市在宅医療推進に関する指標

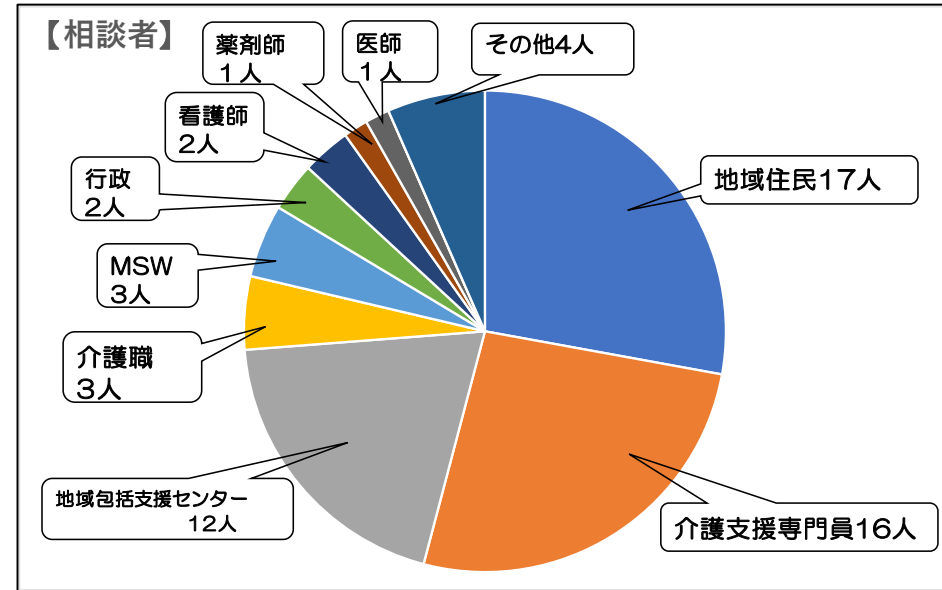
	指標となる項目	令和5年度把握データ	評価の基準 (在タッチ設置前データ)
1	退院調整ルール 連絡もれ率	令和5年度 包括 22.7% 居宅 8.0% 計11.2% (県北退院調整ルール評価アンケート令和5年 6月、7月)	平成30年度 包括18.2% 居宅10.9% 計12.3%
2	自宅死亡率	23.7% 厚生労働省「在宅医療にかかる地域別データ 集 令和3年度」 (更新日：令和5年5月9日)	19.1% 厚生労働省「在宅医療にかかる地域別データ 集 平成29年」 (更新日：令和元年6月19日)
3	在宅医療の訪問患者数 (訪問実施実人数)	2,189人 令和5年3月改訂県北地域在宅緩和ケア社会資源情報 (令和4年調査・回答医療機関数 28か所)	2,961人 平成31年1月改訂県北地域在宅緩和ケア社会資源情報 (平成30年調査・回答医療機関数 31か所)
4	自宅看取り数・診療所数	479名・ 19か所 令和5年3月改訂県北地域在宅緩和ケア社会資源情報 (令和4年調査・回答医療機関数 28か所)	422名・ 23か所 平成31年1月改訂県北地域在宅緩和ケア社会資源情報 (平成30年調査・回答医療機関数 31か所)
5	自宅療養希望率	38.1% (できるだけ自宅で療養し必要なら病院 30.6%、自宅で最期まで療養7.5%) 37.0% (自宅で死を迎えたい) 令和4年度、介護予防・日常生活圏域二エズ調査予定	40.4% (できるだけ自宅で療養し必要なら病院 32.2%、自宅で最期まで療養8.2%) 32.7% (自宅で死を迎えたい) 令和元年度、介護予防・日常生活圏域二エズ調査

※ 3,4 に関してはアンケート調査形式のため、確認作業もしくは東北厚生局へ情報を請求するなど、今後において参考となる指標にするための検討が必要

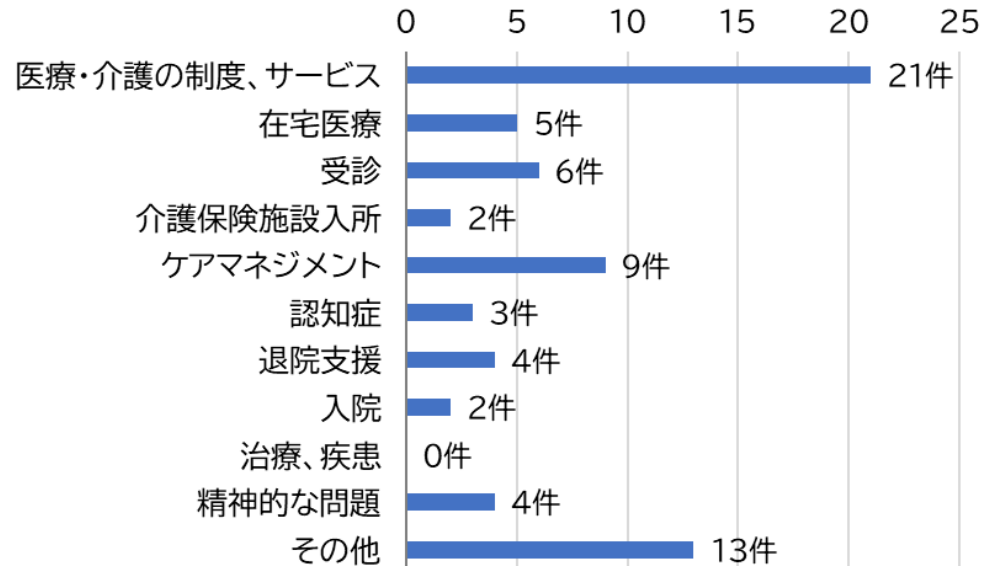
【参考】

令和5年度 相談の状況

(相談件数 61件)



相談内容の内訳(述べ69件)



対応の内訳(述べ84件)

